



20柳建第 680 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 金井道夫 様

柳川市長 石田宝 殿
(建設部建設課)



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

標記のことについて、下記のとおり回答します。

記

1. 今後の道路行政についての意見・提案

別紙のとおり

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

福岡県柳川市

1. 地域活性化や物流のための都市や交通拠点を結ぶ道路の整備

本市は市内を縦横に走る掘り割りを利用した「水郷柳川川下り」や春のひな祭りの際の「さげもん祭り」等の観光及びイベント等に力を入れているが、現状では福岡空港・有明佐賀空港等の空港施設や九州縦貫自動車道・横断自動車道等の IC からのアクセス性が悪いため、時間がかかる等、本市を訪れる観光客に不便をかけている。

また、本市は「福岡のり」等の海産物やナス・レタス等の農産物のブランド化にも力を入れているが、先に述べたように消費地への流通性の悪さが指摘されている。

そこで、このことを解消するためには各空港及び IC と本市を結ぶ高規格道路・地域高規格道路及び広域幹線道路等のネットワークの整備を推進する必要がある。

なお、この高規格道路・地域高規格道路及び広域幹線道路等のネットワークの整備については、知事が提唱している“福岡県内 1 時間構想”の実現のためにも、優先度の高い政策である。

2. 幹線道路整備、道路の維持・管理のための財源の確保

幹線道路の整備のための財源を市町村で確保することは、現在の地方自治体の財政状況では非常に難しく、どうしても国（補助金等を含む）に頼らざるを得ない状況下にある。又、昨今の住民の要望については多種多様に渡っている。道路の維持・管理に係る要望についても箇所数も多く、即応性も求められている。そのことから、道路整備のための財源確保及び道路の舗装修繕や清掃・除草等、道路の維持・管理のための財源確保に努めていただきたい。

3. 道路管理のための充実（日常的な維持管理（清掃・舗装修繕など）・老朽化した橋の予防対策など）

本市を走る国道 208 号線等の幹線道路については、舗装の老朽化が目立ち、路面の凸凹から発生する振動により、夜の安眠が阻害されているようなことも報告されている。

また、老朽化した橋は、地震の際や通行に際して安心が出来ない等の意見が多いことから、早急な対策が必要である。

4. 交通事故対策（通学路を主とした歩道の設置など）

本市を走る国道 208 号線等の幹線道路については、歩道の整備が遅れているため、学童等が安心して通学が出来ない状況にある。そのことから、早急に歩道の整備が必要である。

5. 個別の事業のスピードアップを図るスケジュール管理の徹底

道路は計画から供用の開始までの期間を短縮することで、費用の縮減と効果の拡大を図ることが出来ると思う。そのことから、事業のスピードアップを図るなどスケジュール管理を徹底する必要がある。

6. 沿道の住民や NPO（特定非営利活動法人）などが道路の管理にもっと参画できる取り組みを行う

沿道の住民や NPO が道路の管理に携わることによって、道路に対する愛着の気持ちが芽生えることが期待できる。また、維持・管理費を抑制することが出来、道路の維持・管理費の効率化を図ることが出来る。

7. 道路計画の効率性の確保

道路の計画初期段階から当該地域の自治体等と協議し、効率的な道路計画の確保に努めていただきたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

福岡県柳川市

○現状 人や物の活発な流れを促し、広域的な都市間交流や地域間交流をスムーズにするため、計画的で効率的な道路網の整備が必要です。 有明海沿岸道路は、地域高規格道路として、有明佐賀空港や三池港などの重要交通拠点との連携機能を持つ本市の重要な骨格となる道路で、平成 20 年春に一部暫定供用開始をされましたが、大和南 IC から柳川西 IC 区間 L=7.7km については、一般道路を利用したの開通となっております。	○課題 大和南 IC から柳川西 IC 間 L=7.7km の一般道路区間を有明海沿岸地域の発展のために早期着工を望んでいる。
国道 385 号バイパスは本市と佐賀・福岡方面を結ぶアクセス道路として整備が進んでいる。国道 443 号バイパスは本市東部と九州縦貫自動車道みやま柳川インターチェンジを結ぶとともに有明海沿岸道路の徳益インターチェンジ付近に連結することになっており、南筑後における交通の要衝として整備されている。	国道 385 号バイパスは柳川市から大川市間 L=3.0km が未整備区間として残っており、着工から長い期間を要しており、佐賀・福岡間のアクセスに支障をきたしている。 国道 443 号バイパスは、平成 21 年春にみやま柳川インターに連結し供用開始予定であるが、有明海沿岸道路徳益インター接続の早期完了により本市に多大な事業効果を期待している。
県道大牟田川副線バイパスは大牟田市と佐賀市を結ぶ主要地方道路で、本市の南部を横断する道路で一部供用開始がなされているが、本市の両開地区と昭代地区を結ぶ沖端川渡架橋が未着手である。	本路線は昭和 54 年に着手された本市南部地域の主要幹線道路である。この道路は地域発展に多大な効果をもたらす路線で、特に沖端川渡架橋の早期着手・完成を望んでいる。

②-2 地域の目指すべき将来像

福岡県柳川市

本市は市内を縦横に走る掘り割りを利用した「水郷柳川川下り」や春のひな祭りの際の「さげもん祭り」等の観光及びイベント等に力を入れているが、現状では福岡空港・有明佐賀空港等の空港施設や九州縦貫自動車道・横断自動車道等の IC からのアクセス性が悪いため、時間がかかる等、本市を訪れる観光客に不便をかけている。

また、本市は「福岡のり」等の海産物やナス・レタス等の農産物のブランド化にも力を入れているが、先に述べたように消費地への流通性の悪さが指摘されている。

道路はすべての人々が利用できる唯一の社会資本であるため、多くの人々から支持される道路作りが必要である。主要な施設を結ぶ道路、防災上必要な道路整備を図るため、各空港及び IC と本市を結ぶ高規格道路・地域高規格道路及び広域幹線道路等のネットワークの整備を推進し、企業の誘致を行い、雇用の創出、地域振興を図り生きがいと活力に満ち、自然と共生する住みよいまちを目指します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

福岡県柳川市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	その他
都市交通の快適性・利便性の向上	(1) 国道 208 号の浦島橋早期架替え及び歩道整備 (2) 有明海沿岸道路自動車専用道路の整備 (大和南 IC～大川西 IC) (3) 国道 385 号, 443 号バイパスの早期完成 (4) 県道の整備 ・ 主要地方道大牟田川副線 ・ 主要地方道久留米柳川線 (5) 幹線市町村道の整備 ・ 高橋中牟田線 ・ 大和枝光線 ・ 栄吉富町線 ・ 高田町永松開線	○期待する効果や評価等 地域幹線道路の整備は産業の振興、地域の活性化、住民の定住化を図るため必要不可欠であります。幹線市町村道の整備については、財政状況が非常に厳しくどうしても、国（地域道路交付金事業等）を活用して整備を行っている関係で、着実に道路整備が進んできております。今後も財政措置の拡充を図ってほしい。	